

「道内の感染状況等について（道案）」に対する主な意見

1 有識者・専門家等の意見

1-①

次の波をいかに小さくするかが重要。

札幌から全道各地に波及させないためにも、札幌の感染を抑えるべき。高齢者のワクチン接種が進み、次は若い世代にできるだけ早くワクチン接種をお願いする。

市民は、自粛生活に疲れてきているようだが、今一度、感染対策の徹底を呼び掛けていただきたい。

札幌以外の感染者の出ていない地域の取り扱いは、対策の強度を下げてもいいのではと思う。

1-②

予想通り、感染者数、陽性率、経路不明者の割合の増加など、デルタ株による感染の急拡大が予測される。夏は首都圏や関西からの来道者が増えるため心配な状況。ワクチン供給不足について札幌市から説明があったが、新規予約はキャンセルするとしても、各医療機関への2回目の接種分だけは優先的に供給できるような配慮をお願いする。

1-③

まん延防止等重点措置の終了後、札幌市内での人流が拡大し、デルタ株による感染が増加するなど今後の感染拡大が懸念される一方で、ワクチン接種が進み、重篤化する傾向にあった高齢者の感染に減少傾向がみられる。

こうしたことから、今後の対策内容の見直しには医療提供体制の逼迫状況が重要な要素になると考えられることから、例えば、資料の11及び12ページの入院患者数の推移に確保病床数に対する病床使用率を重ねて表示することにより、25%や50%といった次の対策ステージへの基準との比較が容易となるような資料提供について検討して頂きたい

2 市町村・関係団体の意見

2-①

療養者数、検査陽性率、新規感染者数の増加や感染経路不明割合が50%を超えている状況は懸念するところであり、緊急事態宣言、まん延防止措置が適用されていても、札幌駅やすすきの人の出が減少せず、むしろ増加している状況を踏まえ、対策の効果をしっかり検証していただきたい。

また、引き続き、ワクチン接種の安定供給等について、国に強く要請願いたい。